

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

独立行政法人国立病院機構呉医療センター附属呉看護学校

NO.	授業科目名	授業単位等		実務経験等	
		単位数	時間数	職種名	実務経験
1	共通基本技術 (看護過程の基礎)	1	30	看護師	病院での臨床経験
2	生活援助技術Ⅰ (コミュニケーション、環境調整、 感染防止、活動・休息)	1	30	看護師	病院での臨床経験
3	生活援助技術Ⅱ (フィジカルアセスメント)	1	30	看護師	病院での臨床経験
4	生活援助技術Ⅲ (清潔)	1	30	看護師	病院での臨床経験
5	診療の補助技術	1	30	看護師	病院での臨床経験
6	地域と暮らし	1	15	看護師	病院での臨床経験
7	看護研究論	1	30	看護師	病院での臨床経験
8	老年看護援助論Ⅰ (健康生活と予防)	1	15	看護師	病院での臨床経験
9	精神看護学概論	1	30	看護師	病院での臨床経験
	合計	9	240		

科目区分	専門分野	授業科目	共通基本技術 (看護過程の基礎)
講師名	小杉 恭子	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次・学期	1年次 第2学期
授業概要 *講師からの メッセージ	看護援助の方法論である看護過程について学びます。ゴードンの機能的パターンを用いて対象者の多様な情報(生活者としての側面、生物学的に共通する側面から)収集し看護の視点から統合して対象者の望み(意志)を共有しながらアセスメントする方法を学びます。		
目的: 対象の理解と看護実践の基礎となる基本技術を習得する。 目標: 1. 看護過程の構成要素について説明できる。 2. 看護上の問題を明確にする過程が説明できる。 3. 個別性のある看護計画の立案方法が説明できる。 4. 看護過程の評価の視点が説明できる。 5. 看護記録について説明できる。			
授 業 内 容			
第1回 第2回 第3~6回 【演習】 第7~9回 【演習】 第10回 【演習】 第11回 【演習】 第12回 【演習】 第13回 第14回 第15回	1. 看護過程とは 1) 看護過程とは 2) 看護過程の構成要素 2. 看護過程の展開 1) 情報収集 (1) 情報の種類、情報源、情報収集の方法 2) アセスメントの枠組みと視点 3) 情報の整理・解釈・分析 4) 事例を用いたアセスメントの実際 向老期 大腿骨頸部骨折<回復期> (1) 情報収集 (2) 情報の捉え方、振り分け (3) 情報の解釈・分析 3. 関連図とは 1) 関連図の必要性 2) 関連図の作成の方法 3) 情報・問題の統合 4) 事例を用いた関連図の作成 4. 問題の明確化 1) 看護問題の種類 2) 看護診断 3) 共同問題 4) 事例の看護問題の明確化 5. 看護上の問題の優先度 1) 優先度の決定 2) 問題リスト 3) 事例の看護問題と優先度 7. 計画立案とは 1) 目標(期待される結果) 2) 計画 (1) 観察計画 (2) ケア計画 (3) 教育計画 3) 事例の看護計画 8. 実施・評価 1) 実施 (1) 仮説の検証・準備性 (2) 看護計画と毎日の看護計画の関係 2) 評価 (1) 目標達成の判定 (2) 看護問題、看護計画の追加・修正 (3) 事例の記録の実際 9. 看護記録 1) 看護記録の意義と目的 2) 看護記録の法的位置づけ 3) 看護記録の構成 (1) 基礎情報 (2) 看護計画 (3) 経過記録 (4) 看護サマリー 4) 看護記録の種類 (1) SOAP法 (2) フォーカスチャータニング 5) 看護記録及び診療情報の取り扱い まとめ 45分、終了試験 45分		
授業方法	講義、演習(グループワーク)		
評価方法	筆記試験(50%)、レポート(50%)		
教科書	医学書院: 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 学研メディカル秀潤社: 看護過程に沿った対症看護、基礎と臨床がつながる疾患別看護過程		
参考書	医学書院: NANDA-I 看護診断定義と分類 [電子版] ヌーベルヒロカワ: ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 第6版		
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	生活援助技術Ⅰ（コミュニケーション、環境調整、感染防止、活動・休息）
講師名	東 活年	実務経験の有無	有
単位数（時間）	1 単位（30 時間）	開講年次・学期	1 年次 第 1 学期
授業概要 *講師からの メッセージ	看護の基本的な技術を学びます。技術の修得には、知識の定着とともに反復練習が必要になります。授業への積極的な参加と、自己学習時間を活用した練習を期待しています。		
<p>目的：対象の理解と看護実践の基礎となる基本技術を習得する。</p> <p>目標：1. 看護技術の概念について理解する。 2. 看護の対象に対する、安全と安楽を確保する技術が実施できる。 3. 看護技術を行う基礎となるコミュニケーション方法が理解する。 4. 環境調整の意義について理解する。 5. 環境調整の援助技術が実施できる。 6. 活動・休息・睡眠の意義について理解する。 7. 活動の援助技術が実施できる。</p>			
授 業 内 容			
第 1 回	1. 技術の概念（安全、安楽、自立） 1) 看護技術とは 2) 看護技術の特徴 3) 看護技術を適切に実践するための要素		
第 2 回	2. 看護技術の提供と倫理的配慮 3. コミュニケーション 1) コミュニケーションとは 2) コミュニケーションの基本原理と構成要素		
第 3 回	3) 関係構築のためのコミュニケーション 4) コミュニケーションに必要な能力・態度 4. 感染予防の技術 1) 感染防止の基礎知識		
第 4 回【演習】	2) スタンダードプリコーション（1）手指衛生（2）個人防護用具（3）患者ケアに使用した器具 3) 感染経路別予防策（1）基礎知識（2）接触・飛沫・空気予防策（3）滅菌操作 4) 感染性廃棄物の取り扱い感染とその予防の基礎知識		
第 5 回	標準予防策（スタンダードプリコーション）の実際 手指衛生、個人防護用具の着脱（技術確認） 5. 環境調整技術 1) 人間と環境 2) 病室の環境のアセスメントと調整（1）病室・病床の選択（2）温度・湿度 （3）光と音（4）色彩（5）空気の清浄化とにおい（6）人的環境		
第 6 回	6. 療養環境について考える—快適な環境とは— 1) ベッド周囲の環境整備（1）環境整備の目的（2）環境整備に必要な物品、環境整備の方法 2) 療養環境の環境測定		
第 7 回	7. 活動援助技術 1) 基本的活動の基礎知識 2) 体位・保持 3) 体位変換 8. 睡眠・休息の援助 1) 睡眠の種類 2) 睡眠のメカニズム		
第 8～9 回	9. 病床を整えるための知識 1) マットレス・枕・リネンの条件 2) ベッドメーカーキング 10. 環境調整技術 1) 病床環境を整える技術 2) 病床を整える技術（1）ベッドメーカーキング （2）リネン交換、リネンの取り扱い・方法 ベッドメーカーキング（技術確認）		
第 10～11 回	【演習】 臥床患者のリネン交換：臥床患者のリネン交換、仰臥位から左右側臥位への体位変換、安楽物品を用いた安楽な体位の調整、快適な療養環境整備、安全な療養環境の整備（転倒・転落・外傷予防）		
第 12 回	技術チェック 45 分：臥床患者のリネン交換		
第 13 回	11. 活動援助技術 1) 移動 2) 移乗・移送		
第 14～15 回	車椅子移乗・移送（技術チェック） 【演習】 ストレッチャーへの移乗、ストレッチャー移送（技術確認）		
第 15 回	終了試験 45 分		
授業方法	講義、演習		
評価方法	筆記試験（100%）		
教科書	医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ		
参考書	学研メディカル秀潤社：看護技術プラクティス メディックメディア：看護が見える vol.1 基礎看護技術		
備考	既習関連科目：人間関係論、微生物学講義、基礎看護学概論		

科目区分	専門分野	授業科目	生活援助技術Ⅱ (フィジカルアセスメント)
講師名	奥田 真由美	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次・学期	1年次 第1学期
授業概要 *講師からの メッセージ	看護を実践するためには、対象となる人の観察とアセスメントが重要になります。この授業では、対象となる人の身体を外側から測定する方法とその原理を身につけていきます。また、測定するときの配慮についても考え実践に活かしてほしいと思っています。		
目的：対象に必要な観察を行うための知識と観察技術を習得することができる。 目標：1. 主要な症状から病態のメカニズムを理解し、必要な情報収集と観察項目を導き出す思考過程を養うことができる。 2. 看護における観察の意義を理解し、五感を活用した問診・視診・触診・打診・聴診の知識と技術を習得することができる。			
授 業 内 容			
第1回 【講義】 第2回 【講義】 第3回 【講義】 第4～5回 【演習】 第6回 【講義】 第7回 【講義】 第8回 【演習】 第9回 【講義・演習】 第10回 【講義】 第11回 【講義】 第12回 【演習】 第13～14回 【演習】 第15回	1. フィジカルアセスメントの意義 2. フィジカルアセスメントに必要な技術 1) 問診 2) 視診 3) 触診 4) 打診 5) 聴診 6) 全体の概観 3. バイタルサインの観察とアセスメント 1) 体温 2) 脈拍 3) 呼吸 4) 血圧 5) 意識レベル 6) 計測の技術 7) 生理的変動因子 バイタルサイン測定(体温・脈拍・呼吸・血圧) 身体計測 4. 呼吸器系のフィジカルアセスメントの目的、基礎知識、実際 1) 自覚症状 2) 他覚症状の視診 3) 胸郭の視診・触診 4) 胸部の打診 5) 呼吸音の聴診 5. 循環器系のフィジカルアセスメントの目的、基礎知識、実際 1) 自覚症状 2) 他覚症状の視診 3) 頸静脈の視診と頸静脈圧の測定 4) 胸部の触診 5) 心音の聴診 6. 胸部(呼吸器系・循環器系)のフィジカルアセスメント 胸郭の触診、胸部の打診、呼吸音聴診、心音聴診 7. 腹部のフィジカルアセスメントの目的、基礎知識、実際 1) 自覚症状 2) 他覚症状の視診 3) 腸蠕動音、血管雑音の聴診 4) 打診 5) 触診 ：腸蠕動音聴診 8. 筋・骨格系のフィジカルアセスメントの目的、基礎知識、実際 1) 自覚症状 2) 関節可動域の観察 3) 徒手筋力テスト(MMT) 9. 脳・神経系のフィジカルアセスメントの目的、基礎知識、実際 1) 自覚症状 2) 運動機能の評価 3) 感覚機能の評価 10. 筋・骨格系、脳・神経系のフィジカルアセスメント ：意識レベルの評価、関節可動域訓練、徒手筋力テスト 11. 看護ケアにつなげるフィジカルアセスメント(系統別フィジカルアセスメントの統合) ：発熱、呼吸器症状(咳嗽、喀痰、呼吸困難感、動悸)を訴える患者のフィジカルアセスメント ・問診 ・バイタルサイン測定 ・呼吸器系/循環器系のフィジカルアセスメント ・得た情報の統合と報告 技術試験 45分 筆記試験 45分		
授業方法	講義、演習		
評価方法	筆記試験(50%)、技術試験(50%)		
教科書	医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ メディックメディア：看護が見える vol.3 フィジカルアセスメント		
参考書	医学書院：フィジカルアセスメントガイドブック メヂカルフレンド社：はじめてのフィジカルアセスメント第2版		
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	生活援助技術Ⅲ（清潔）
講師名	大倉 令	実務経験の有無	有
単位数（時間）	1単位（30時間）	開講年次・学期	1年次 第1学期
授業概要 *講師からの メッセージ	看護師は、疾病・障害などなんらかの理由によって普段どおりの清潔行為や衣生活の維持が困難になった患者に、その人に適した方法を考え清潔の援助を行います。病態を考慮し、その人に即した方法を考えられるようになるために、援助の基本を学びましょう。		
<p>目的：日常生活における身体の清潔、衣生活の意義について理解し、病気に罹患し療養している対象への清潔の援助方法についての知識・技術・態度を習得する。</p> <p>目標：1. 日常生活における身体の清潔、衣生活の意義について理解し説明することが出来る。 2. 皮膚粘膜に関する解剖生理学的知識を活用しながら、対象の身体を清潔にする方法の原理原則に関する知識を習得する。 3. 原理原則に基づいて安全・安楽に清潔援助を行うことができる。</p>			
授 業 内 容			
第1回 【講義】	清潔・衣生活の意義		
第2回 【講義】	清潔援助の方法と選択 1) 身体への影響 2) 手浴・足浴・入浴介助・シャワー浴介助		
第3・4回 【演習】	手浴・足浴（技術確認） ：ベッド上仰臥位の患者への手浴・足浴／端坐位保持が可能な患者への手浴・足浴		
第5回 【講義】	身体各部分の清潔 ：整容（洗面、目・耳・鼻の清潔、爪切り、髭剃り）／口腔ケア（歯磨き・義歯のケア） 洗髪（ドライシャンプー・ベッド上・洗髪車・洗髪台）		
第6・7回 【演習】	身体各部分の清潔（技術確認） ：口腔ケア／洗髪（ベッド上） 入浴介助、シャワー浴介助（モデル人形を用いた演習）		
第8回 【講義】	全身の保清 ；寝衣交換（点滴ドレーン等留置のある患者の寝衣交換方法含む） 全身清拭、陰部の保清（陰部洗浄）、おむつ交換		
第9・10回 【演習】	臥床姿勢の患者（点滴・ドレーン等の留置の無い）の清潔援助 ：全身清拭		
第11回 【演習】	臥床姿勢の患者（点滴・ドレーン等の留置のない）の清潔援助 ：陰部洗浄 / おむつ交換（陰部モデルを使用しての演習）		
第12回 【演習】	臥床姿勢の患者（点滴・ドレーン等の留置のない）の清潔援助 ：寝衣交換		
第13・14回 【演習】	臥床姿勢の患者（点滴・ドレーン等の留置のない）の清潔援助 ：全身清拭 / 陰部洗浄 / おむつ交換 / 寝衣交換		
第15回	技術試験 45分：臥床姿勢の患者（点滴・ドレーン等の留置のない）を対象とした清潔援助 筆記試験 45分		
授業方法	講義、演習		
評価方法	技術試験（50%）、筆記試験（50%）		
教科書	医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ		
参考書	学研メディカル秀潤社：看護技術プラクティス メディックメディア：看護が見える vol.1 基礎看護技術 医学書院：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術		
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	診療の補助技術
講師名	三宅 優子	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次・学期	1年次 第1学期
授業概要 *講師からの メッセージ	限られた演習の時間を大切に活用するために、事前に手順等をしっかり読み込んでおいてください。安全な物品の取り扱いに留意し、実際の患者に行う思いで技術の習得を行いきましょう。		
<p>目的：看護実践の基礎となる診療援助技術を習得する。</p> <p>目標：1. 薬物療法の意義・目的が理解する。 2. 薬物療法を受ける患者に必要な援助の方法を習得する。 3. 安全に与薬を行うシステムのあり方について理解する。</p>			
授 業 内 容			
第1回	1. 薬物療法の意義		
第2回	2. 薬物療法における看護の役割 1) 薬物療法における看護師と多職種との関連 2) 薬物療法における看護師の役割		
第3回	3. 薬物療法の基礎的知識 1) 薬に関連した法令 2) 薬物の種類 3) 薬剤の吸収・排泄のメカニズム (1) 吸収 (2) 分布 (3) 代謝 (4) 排泄 4) 薬理作用とその影響因子 (1) 薬理作用に影響を及ぼす要因		
第4回	4. 薬物療法における安全確保の技術 1) 誤薬防止の基礎知識と実際 2) 医療廃棄物の取り扱い 3) 薬剤の管理(毒薬、劇薬、麻薬) 4) 主作用・副作用とその対応		
第5～6回	5. 薬物療法における援助過程と与薬の技術 1) 経口的与薬法(固形剤、粉末剤、液状剤) 2) 口腔内与薬法(舌下錠、バツカル錠、トローチ) 演習：経口的与薬法、口腔内与薬法(技術確認)		
第7回	3) 直腸内与薬法(全身作用、局所作用) 4) 点鼻・点耳・点眼法・経皮的与薬法 演習：経皮・外用薬の投与(技術確認)		
第8回	5) 注射法 注射薬の種類、注射実施上の事故防止と責任 (1) 皮下・皮内注射 (2) 筋肉内注射 皮下注射の実際(注射訓練モデルを用いた演習)(技術確認)		
第9回	筋肉内注射の実際(注射訓練モデルを用いた演習)(技術確認)		
第10回	(3) 静脈内注射の基礎 ①静脈内注射の種類：静脈内注射 点滴静脈内注射 中心静脈カテーテル法 ②抗がん剤の人体への影響とその効果 抗がん剤の安全な取り扱い 薬剤の管理方法、ばく露予防策について 点滴静脈内注射の手順と留意点 点滴静脈内注射の実際(技術確認)		
第11～12回	・薬剤の準備(アンプルからの吸い上げ、溶解薬剤のバイアルからの吸い上げ)		
第13～14回	【演習】 ・翼状針を用いた点滴静脈内注射 ・点滴静脈内注射の管理		
第15回	6. 輸血療法時の看護 1) 輸血とは 2) 輸血療法の適応 3) 血液型と交差適合試験 4) 輸血による副作用 5) 輸血時の観察と看護 6) 血液製剤の保管と管理		
授業方法	講義、演習		
評価方法	筆記試験(90%)、課題(10%)		
教科書	医学書院：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II		
参考書	学研メディカル秀潤社：看護技術プラクティス メディックメディア：看護が見える vol.2 臨床看護技術		
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	地域と暮らし
講師名	村川 陽子	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15時間)	開講年次・学期	1年次 第1学期
授業概要 *講師からの メッセージ	地域で生活する人々とその家族を理解するために、住み慣れた地域での暮らしの状況や人々および家族の状況について学びましょう。		
目的：住み慣れた地域で暮らす人々とその家族を理解する。 目標：1. 住み慣れた地域を知る。 2. 地域で暮らす人々とその家族を知る。 3. 地域で暮らす人々とその家族について、ディスカッションをし、理解を深める。			
授 業 内 容			
第1回	1. 人々の暮らしの理解 1) 暮らしとは 2) 暮らしと健康の関係		
第2回	3) 暮らしの中で健康をとらえる 2. 地域・在宅看護の役割 1) 地域・在宅看護の基盤となる考え方 2) 地域・在宅看護に求められる役割		
第3回	3) 演習1：ワークシート1のグループワーク及び発表		
第4回	4. 暮らしと地域 1) 地域の定義 2) 人々の暮らす地域の多様性 3) 呉市に住んでいる高齢者(老々介護)の生活 4) 演習1：ワークシート2のグループワーク及び発表		
第5回	5. 講演「呉市のまちづくりについて」呉市市役所職員		
第6回	6. 暮らしと地域を理解するための考え方 1) システム理論 2) システム思考 3) システム思考とクリティカルシンキング		
第7回	7. 地域包括ケアシステムと地域共生社会 1) 地域包括ケアシステム 2) 地域共生社会		
第8回	3) 演習2：ワークシート1のグループワーク及び発表 終了試験：45分		
授業方法	講義、演習		
評価方法	科目終了試験(60%)、レポート課題(40%)		
教科書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論1(医学書院)		
参考書			
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	看護研究論
講師名	花子 紀子	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1 単位 (30 時間)	開講年次	2 年次 第 2 学期
授業概要 *講師からの メッセージ	私は統計学や研究について学んだ実績を活かし、看護における研究の意義や楽しさを学生の皆さんに伝えたいと思います。また、多くの研究報告がなされていますが、その研究を読む力を身につけ、自らの看護実践に活かしていけるような力も養いたいと思っています。		
目的：看護を行うにあたり研究的な視点で科学的、理論的におこなっていくことの必要性を理解する。			
目標：1. 看護研究の目的と意義が理解できる。 2. 看護研究の基礎が理解できる。			
回	授 業 内 容		
第 1 回	1. 看護研究とは 1) 看護研究の意味 2) 研究に必要な基礎的知識 3) 研究方法の種類		
第 2 回	2. 看護研究の種類と方法 1) 研究の領域を大別した研究方法 2) 導き出し方の違いによる研究方法 3) データの性質の違いによる研究方法 4) データ収集方法の違いによる研究方法 5) 研究手法からみた研究方法		
第 3 回	3. 様々な研究手法と実際 1) 量的研究 (1) 記述統計と推測統計 (2) 仮説、独立変数と従属変数		
第 4 回	2) 質的研究(1)質的研究で明らかにできること (2) 質的研究の主な手法カテゴリーとネーミング 3) ケーススタディ 4) その他の研究手法		
第 5 回	4. 文献とは何か 1) 文献検索の実際 (一次・二次文献) 2) 自分の興味のある内容を検索してみよう 5. 研究のプロセス 1) インターネットを利用した文献検索と活用		
第 6 回	5. 研究のプロセス 2) テーマの設定と計画書の作成 3) 研究における倫理的配慮		
第 7 回	5. 研究のプロセス 4) データの収集と分析 5) 結果の表現方法		
第 8 回	6. 研究成果の発表 1) 発表の場 2) 発表の仕方 (1) 効果的な発表 (プレゼンテーション) (2) ケーススタディ発表会への参加		
第 9 回	7. 論文を読んでみよう 過去の研究論文を読み、論文の読み方を知り、看護における研究成果を知る		
第 10 回	8. 看護理論とは 1) 理論の構成要素 (前提、概念、命題) 2) 理論の種類 (広範囲理論・小範囲理論・中範囲理論) 3) 看護理論の変遷：看護理論の背景・意義		
第 11 回	9. 主な看護理論の構成概念とその活用 (グループワーク) 1) ナイチンガール 2) ヘンダーソン 3) ウ		
第 12 回	イーデンバック 4) オレム 5) ペプロウ 6) トラベルビー 7) ロジャーズ 8) ワトソン		
第 13 回	グループワーク 11・12 回：看護の主要概念、理論の形成された過程 (背景)、事例への活用について調べ学習 13 回：発表		
第 14 回 +45 分	10. 中範囲理論の看護実践への活用 ・病気、障害、人生の体験を説明する理論 ・危機、ストレス、不確かさなどに関する理論・行動変容、行動強化に関する理論		
第 15 回	まとめ 終了試験 (45 分)		
授業方法	講義 (Web 検索演習)、統計処理手法、グループワーク		
評価方法	筆記試験、課題レポート		
教科書	照林社：ひとりで学べる看護研究 南江堂：看護理論 看護理論 20 の理解と実践への応用		

科目区分	専門分野	授業科目	老年看護援助論Ⅰ(健康生活と予防)
講師名	小山 仁一	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15時間)	開講年次・学期	2年次 第1学期
授業概要 *講師からのメッセージ	高齢社会の中で高齢者の健康寿命を延ばす関わりが看護師に求められています。高齢者が老いを自覚しながらも、健康的な生活を維持するための看護実践について学びます。		
目的：高齢者の生活維持・健康生活のための看護実践が出来るための知識・技術を修得する。 目標：1. 高齢者のヘルスアセスメントについて理解する。 2. 高齢者に起こりやすい症状が理解する。 3. 高齢者の自立を支える看護方法が実践する。 4. 高齢者の日常生活に潜む事故について理解する。 5. 高齢者の終末期症状と看護の実際が理解する。			
授 業 内 容			
第1回	1. 高齢者の生活機能を整える看護 1) 日常生活を支える基本的活動 ①転倒のアセスメントと看護 ②廃用症候群のアセスメントと看護		
第2回	2) 食事・食生活 ①高齢者における食生活の意義 ②高齢者に特徴的な変調(摂食嚥下障害・低栄養) ③食生活のアセスメント ④食生活の支援 ⑤嚥下訓練		
第3回	3) 排泄 ①高齢者の排泄ケアの基本 ②排尿障害のアセスメントとケア ③排便障害のアセスメントとケア		
第4回	4) 清潔 ①高齢者に生じやすい清潔に関する健康課題(皮膚の変化(褥瘡)・ドライスキン) ②清潔のアセスメント ③清潔の援助(入浴・フットケア) ④入浴行動に伴う危険性 ⑤嚥下障害のある高齢者の口腔ケア(義歯洗浄を含む) ⑥褥瘡予防(演習)		
【演習】			
第5回	5) 生活リズム ①高齢者と生活リズム ②高齢者に特徴的な変調 ③生活リズムのアセスメント ④生活リズムを整える看護 6) コミュニケーション ①高齢者とのコミュニケーションとかわり方の原則 ②コミュニケーション能力のアセスメント ③高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーションの方法		
第6回	2. 高齢者のリスクマネジメント 1) 高齢者と医療安全 ①高齢者と医療事故 ②高齢者特有のリスク要因 ③高齢者がみまわれやすい 医療事故と対応の実際(熱傷・誤嚥・チューブ類の自己抜去) 2) 高齢者と災害		
第7回	3. 高齢者のエンドオブライフケア 1) エンドオブライフケアの概念 2) 意思決定への支援 3) 末期段階に求められる援助		
第8回	1時間(45分)：終了試験		
授業方法	講義・グループワーク・演習		
評価方法	筆記試験(100%)		
教科書	医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾患論		
参考書			
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	精神看護学概論
講師名	天野 志保	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次・学期	2年次 第1学期
授業概要 *講師からの メッセージ	現代はストレスフルな社会で、うつ病などの精神疾患に罹患する人も増えています。また、身体の不調は精神の健康にも影響します。心身両面から看護できるよう必要な知識を身につけましょう。また、精神保健の考え方と現代の社会病理の様相、生活の場面との関わりの中で捉えた精神保健の変遷や法制度とともに、精神看護の役割について学びます。		
目的：心の健康と発達から精神障害をとらえ、地域での生活を目指す、地域で生活をしている対象と家族を支えるための看護活動および、精神障害のあるあらゆる対象の生活を支える役割と機能について理解する。			
目標：1. 現代社会の特徴と、心の健康問題について理解する。 2. 精神看護の役割と機能を担うための人間関係構築のスキルやコミュニケーションスキルについて理解する。 3. これからの精神看護における課題を理解する。			
授 業 内 容			
第1～2回	1. 精神保健の考え方 1) 精神保健で学ぶこと 2) 精神の健康と精神障害のとらえ方 3) ストレスと健康の危機 4) 心的外傷が精神の健康に及ぼす影響		
第3回	2. 関係の中の人間 1) 全体としての家族 2) 人間と集団 3. 地域における精神保健と精神看護 1) 精神障害をもちながら地域で暮らす人を支える 2) 地域で生活するための原則		
第4～5回	3. 地域における精神保健と精神看護 3) 生活を支えるための社会資源・サービス 4) 地域社会・学校・職場における精神保健		
第6～7回	4. 社会の中の精神障害 1) 日本における精神医学・精神医療の流れ 2) 精神障害と法制度		
第8回	5. 精神看護学で何を学ぶのか 1) 「心のケア」と現代社会 2) 精神看護学とその課題 6. 対象関係論(コフートの自己心理学・土谷健郎の「甘え」理論)		
第9回	7. ケアの人間関係 1) ケア的前提・原則・方法(ペプロウ・トラベルビー・外口玉子・オレム-アンダーウッド) 2) 患者-看護師関係における感情体験 3) 医療の場のダイナミクス		
第10～11回	8. 関係をアセスメントする 1) プロセスレコード(オーランド・ウィーデンバック・ペプロウ) 2) 自己理解の必要性と治療的コミュニケーション(ヘイズとラーソン)		
第12回	9. 回復を助ける 1) 入院治療の目的と意味		
第13～14回	10. 災害と精神看護 11. サバイバーとしての患者とそのケア 12. リエゾン精神看護 13. 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス		
第15回	終了試験		
授業方法	講義		
評価方法	筆記試験(100%)		
教科書	医学書院：系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [1] 精神看護の基礎・[2] 精神看護の展開		
参考書			
備考			